九州のキリスト教シリーズⅡ

南蛮の鼓動

―大分に残るキリシタン文化―

日本が初めて出逢った南蛮文化。
見たこともない舶来品は、人々の目にどう映ったのか。
聞いたこともない教えは、その土地に何を残したのか。
今、当時の南蛮が根付いた大分を紐解く。

聖フランシスコ・ザヴィエル像（複製）（津久見市）

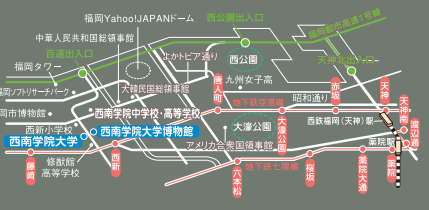
2010
5.27(木)～7.3(土)

時間　10:00～18:00（入館は17:30まで）　※日曜休館
会場　大学博物館（ドージャー記念館）　入館料　無料

第7回
特別展関連公開講演会
《事前予約不要・入場無料》

期日　2010年6月26日（土）　時間　第1部/14:00～14:30　第2部/14:30～16:00
会場　大学博物館（ドージャー記念館）2階 講堂
演題・講師　第1部/「大分に残る南蛮文化」 安高 啓明 氏（西南学院大学博物館学芸員）
第2部/「豊後キリシタンの盛衰」 五野井 隆史 氏（東京大学名誉教授）

西南学院大学博物館
博物館事務室　TEL.092-823-4785
〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号
URL www.seinan-gu.ac.jp/museum/
西南学院大学



九州のキリスト教シリーズⅡ

南蛮の鼓動

—大分に残るキリシタン文化—

2010 5.27(木)~7.3(土)

時間 10:00~18:00(入館は17:30まで) ※日曜休館

会場 大学博物館(ドージャー記念館)

フランシスコ・ザビエルが来航してから、日本にキリスト教がもたらされますが、これを受けて大分では、領主の大友氏の援助もあってキリスト教に関係する施設が設置されます。特に大友宗麟は自らも洗礼を受けキリシタン大名としてキリスト教を積極的に保護しました。また大分各地にはキリシタン遺跡も数多くあり、現在でも多くの発掘成果が挙げられています。こうした禁教以前に繁栄した南蛮文化の作品やキリシタン大名である大友宗麟の事跡を紹介するとともに、豊後府内のキリシタンの信仰の姿に迫ります。また、南蛮貿易により栄えた大友領もあわせて紹介していきます。

九州のキリスト教シリーズ

本シリーズは九州各地のキリスト教文化にスポットをあてたもので、歴史学や考古学、美術史などから、当時のキリスト教文化の特色やキリシタンの信仰の足跡をたどります。そして、キリスト教の伝播過程や信仰形態から、日本人がキリスト教を受容した姿に迫ります。本シリーズを通じて、キリスト教文化圏の実像と九州のキリスト教への認識を深める機会にしていただければと思います。

展示構成

Ⅰ. 大友宗麟と豊後府内

キリシタン大名である大友宗麟の事績と当時の豊後府内の様子を紹介します。

天正遣欧使節肖像(複製)(津久見市)

大友宗麟画像(複製)(津久見市)

Ⅱ. 南蛮文化の精華

フランシスコ・ザビエル来航以降に栄えた南蛮文化を紹介します。
また、16世紀の地図を通じて外国人の「日本」への認識を紹介します。

象嵌南蛮人文鐙(津久見市)

鉄地筋金象嵌桃形兜(南蛮兜)(大分市歴史資料館)

オルテリウス「アジア図」(大分市歴史資料館)

Ⅲ. 受容と信仰

キリスト教を受容した人々の姿を発掘遺物から紹介します。

指輪(大分県教育庁埋蔵文化財センター)

メダイ(大分県教育庁埋蔵文化財センター)

Ⅳ. 府内大友氏の交流

大友府内町から発掘されたものから、当時の海外交流の姿を紹介します。

中国青花皿(大分県教育庁埋蔵文化財センター)

タイ練上手クンディー
(大分県教育庁埋蔵文化財センター)

西南学院大学博物館

博物館事務室 TEL.092-823-4785 〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号
URL www.seinan-gu.ac.jp/museum/